



NO.1027

2015・7・12

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
五四三・四四五八
F 四三・四四五七



安全保障法制の意見書 全会一致で採択!

網走市議会第2回定例会で、市民団体などから提出されていた陳情と意見書の要請が、6月25日の総務経済委員会審査されました。

平和憲法を守る網走の会から「安保関連法案のすみやかな廃案を求める」陳情と北海道高等学校教職員組合連合会から「憲法を守り、日本を海外で戦争する国にする戦争立法の廃案を求める」陳情について審査されました。

日本共産党の松浦さとし議員は、陳情に書かれているように安倍内閣は、これまで歴代政権が「集団的自衛権の行使は憲法違反」と一貫して言ってきたこと、それを安倍内閣が解釈を180度変えて合憲だとすることは、あり得ない話だとして、意見書の採択を求めました。

しかし、志誠会の工藤議員と公明クラブの佐々木議員は、「国会で審議中の法律を廃案などということは受け入れられない。慎重な審議とあるのであれば話は別だ」として、継続審査を求めたことにより全会一致にならず継続審査となりました。

雨の中、女性が戦争法案反対訴える

7月4日(土)、戦争法案廃案を求めた宣伝行動が市内2カ所で行われ、雨の中、女性3人のスピーチに耳を傾ける市民の姿がありました。



の要請の審査では、志誠会は慎重審議であれば賛成する、公明クラブは一部修正を求めて賛成したため、全会一致で委員会での採択となりました。議会最終日の7月1日の本会議でも全会一致で採択になり安倍内閣に意見書が送付されました。

立崎聡一議員が 神社に寄付行為

議会最終日の本会議で発言を求めた立崎議員は、地元音根内神社建設費に50万円寄付をしていたことを明らかにして謝罪しました。

日本共産党の松浦さとし議員は、「立崎議員本人が議場で神社への寄付行為を認めた」こととあり、公職選挙法に違反していることは明らかであり謝罪ではすまない重大問題だ。「議員としての責任の取り方が問われている」と述べています。

現時点では、詳細について分かっていませんが、議会としては詳細な事実関係を求め対応を協議しています。

菊地ひろし まっしぐら。

緊迫する「戦争法案」の審議が続く中、私も参加する『平和憲法を守る網走の会』では、

高校生に「戦争法案」の中身を伝える、若者を戦場に送るな、のチラシを配布しました。寒い日でしたが、受け取りはこれまでと変わらなかったのですが、法案が通れば直接自分(高校生)の問題になるだけに、もっと見てもらいたかったというのが率直な感想でした。

政府の説明を何回聞いてもわからないのですが、私たちの宣伝の量も少ないと反省しています。私の車に「戦争法案反対」のポスターと自作のステッカー「7・11デモ行進」宣伝ポスターを張っていますが、全国のみなさんの中には、「戦争法案」に黙ってはいられないと、自分の思いを形に表わしているようです。みなさんも周りに見える形で表現してはいいかがでしょうか。

古い話で恐縮ですが、私は高校生の時カバンに「ベトナム戦争反対」と彫って通学していました。

松浦さとし 奮戦メモ

いま地域を「戦争法案反対」の署名を持って訪問していますが、最近、みなさん進んで署名をしてくれました。安倍内閣の「戦争法案」の進め方が強引すぎるし、これだけ国民が反対や不安を抱いている問題を数の力で通していいはずがないとの声が大きくなってきていることを感じています。

また、戦争を体験した高齢者のみなさんは口々に「戦争は人の命を虫けらのように殺し、殺されるものだ。空襲を受けて防空壕の中で恐怖に怯えていたことを今でも忘れない。戦争は絶対してはいけない」と、当時の事を思い出しながら訴える姿に、昭和28年生まれの私は、戦争を知らない世代ですが体験者の話を聞くことで戦争の恐ろしさを知ります。安倍首相は、そのことを学ぼうとしますが、国民はそれを許しません。

流水

安倍自公政権は安保法制関連法案を何うと、国会の会期を戦後最長となる延期を自民・公明の賛成

多数で強行しました。この会期延長に先立っては、衆院参考人は、自民推薦参考人を含めて違憲とし、また、歴代の元法制局長官が集団的自衛権行使を違憲と厳しく批判したのです。▼しかし「これは戦争法案だ」という野党の非難を意識してか、頭に平和の字を冠し、「国際平和支援法」「平和安全法案」と強弁する厚かましきです。▼しかし、過去の戦争は何れも平和の名の下に国民を根こそぎ戦争に駆り立てたのです。先の戦争は、少年は14歳から少年飛行兵に15、16歳から海軍と徴用され、やがて特攻隊員として死んで行きました。▼また戦争末期には12歳以上の青少年男女は労働力として徴用され危険な職場で働かされました。自公政権が強行採決を狙う関連法案はまさにこうした危険を先取るものにも外なりません。何としても廃案とし、戦争の火種を消し去る事が大切です。「ミナマタ」の裁判を戦った弁護士という言葉で、必ず私たちは勝利する。なぜならば勝つまでやるからと。私たちに、すばらしい先人達がたくさんいます。安保関連法案廃棄まで頑張ろう。(K)